

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895000111		
法人名	医療法人社団六心会		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	兵庫県神戸市北区道場町日下部1853番地		
自己評価作成日	令和2年11月17日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市北区道場町日下部字林が鼻1853番地		
訪問調査日	令和3年3月4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、外出が制限される中で、事業所内で、各フロアで季節ごとの作品を作り展示を行う、事業所敷地内で園芸活動を行った。毎日取り組んで頂く塗り絵で、ご利用者の色使いから、その時の体調や、ご本人の精神面の変化等を感じることができ、生活を支える中での新たな情報を得ることが出来た。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の避難所にもなっている隣接の病院が運営母体であり、健康管理や医療面で利用者に安心感を与えている。玄関は日中開錠しており、ユニット出入口に扉は無く開放的で、希望する方には職員が付添って外に出るほか、センサーマットや3点柵も使わず、身体拘束しないケアを徹底している。今は感染防止の為自粛中だが、地元の各種行事に入居者が参加し、事業所の秋祭りやこころカフェに住民が来訪したり、車椅子ダンス等のボランティアも訪れるなど、地域との交流も深まっている。コロナ禍でも屋外で短時間の面会を工夫したり、外出行事や家族の集まる催しが出来ない代わりに事業所内部でのレクリエーションや楽しみの充実を図っている。毎月個々の入居者の様子をスナップ写真と職員が手書で綴ったお便りで伝える「こころ手紙」を家族に送り好評である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の名札の裏に基本理念と職員行動指針が印刷されており常に意識するように指導している。フロアーにも掲示している。今年度コロナウイルス感染拡大防止の為、全体会議を中止したが、回覧する形で、基本理念、重要事項説明書を読んでもらい、フロアーリーダーに感想を述べてもらった。	「誠実な介護を通して地域社会に貢献する」という基本理念と6箇条の基本方針を事業所内に掲示している。コロナ禍で全体会議を中止しているため、職員に理念・基本方針・行動指針を回覧し感想をフロアーリーダーが聞くという方法で共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度においては、コロナウイルス感染拡大防止の為、地域行事は全て中止となり、事業所が行うところカフェも中止している。運営推進会議の場において、民生委員を中心に情報交換を行い、職員に伝えている。	開設からの8年余りで地元の各種行事に入居者が参加し、事業所の秋祭りやこころカフェに住民が数多く来訪するなど、地域との交流は深まっていたが、今は感染防止の為全て中止している。カラオケ・車椅子ダンス等のボランティアも訪問を自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所での認知症利用者様の対応や取り組みについて、運営推進会議の場でお話させていただいた。地域の方からも、見守りで携わっている認知症の方のお話を伺う、当事業所に相談に行ってはどうかといったアドバイスをしたとの意見を頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場では、事業所での活動等を報告し、意見を頂いている。その意見は各部署に口頭、議事録で伝え、日々の支援に活かすように努めている。	運営推進会議は出席メンバーを揃えて隔月開催してきたが、コロナ感染の拡大中は中止とし、緩和中の6月と10月は開催した。地域で気がかりな方について、出席の民生委員やあんしんすこやかセンターと情報を交換し、適切な対応方を相談検討した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は、運営推進会議の実施について市町村へ相談するにとどまっているが、あんしんすこやかセンターとは連絡を密にとり、情報を共有するケースがある。あんしんすこやかセンターからは、恒例のご家族の状況等連絡頂く機会がある。	運営推進会議の中止については、市役所に相談の上決めている。あんしんすこやかセンターからは職員が毎回運営推進会議に出席しており、地域住民の支援などに関する専門機関としての意見や情報を交換したり、住民からの相談を紹介されたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	計画的に身体拘束の研修を行っている。又身体拘束適正化委員会を毎月開催し、行動制限や不適切なケアについて日頃の業務のなかでの気付きを持ちよりカンファレンスしている。エレベーターは安全の為テンキー操作にしているが利用者の様子を観察してその都度職員が付き添い、話を聴いたり付き添ったりしている。利用者様要望時は、屋外へ案内する等の対応を行っている。	玄関は日中開錠しており、ユニット出入口に扉は無い。エレベーターはテンキー付きだが、希望する方には職員が付添って外に出る。センサーマットや3点柵は使わず、転倒危険のある方には夜間ベッドの横に布団やマットレスを敷くなどして安全を図っている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で開催される研修は現状ではコロナウイルスの関係で行われていない。今年度は、神戸市の作成したビデオを各自で見てもらい、10月のフロア会議において、グループワークを行い、各フロアごとで不適切ケアについて考える機会を持ち、レポートを提出してもらった。	身体拘束と併せ年に2回研修を行っている。不適切な言動は見られなくなっているが、介護量の偏りによる結果としての放置等が生じないように注意している。ストレスのセルフチェックと産業医面談の仕組みを設けるなど、職員の心のケアにも配慮している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、ご家族が成年後見されているケースが2件いずれもご家族が後見をされている。神戸市の発行するパンフレットを用い、職員には説明を行っている。現在、成年後見を考えている方が1件あるが、ご家族の気持ちが固まっていない。あんしんすこやかセンターとも相談し、ご家族と話す機会を作った。	家族が成年後見制度の後見人になっている方が2人と制度利用を検討中の方が1人いる。今年度は権利擁護についての外部研修を受けた管理者による伝達研修がコロナ禍で行えず、フロアごとに職員へ制度の説明をするのみとなった。制度の資料は常備している。	成年後見制度に対するニーズは今後増々高まると思われます。外部の専門家も活用して研修を継続し、職員の理解を深め相談等に対応していただけることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書をはじめ全て読み上げ、詳しく説明を行い不安なことやわからない事等聞き取り丁寧に説明している。改定時や追加事項がある場合は説明文書をお渡しし理解納得いただいた上で同意書をいただいている。消費税改定時は文書を作成し説明同意を頂いた。	契約時には管理者が契約書・重要事項説明書等を全て読み上げ、1時間半位かけて丁寧に説明している。入院した場合の居室確保は2ヶ月程度で退院の見込みがあれば可能だが、医療措置が常時必要になると難しいこと等にも理解を得た上で契約している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への連絡先については、事務所前と重要事項説明書に記載し説明を行っている。面会時には日々の様子をお話するとともに、ご意見を頂いた際はフロアへ伝達し周知している。	家族の意見は面会等で来所時に聞くことが多く、来られない家族には電話で聞いているが、今年はコロナ禍による面会制限等のため意見を聞く機会が少くなっている。毎月個々の入居者の様子を写真と手書きのお便りで伝える「こころ手紙」を家族に送っている。	毎月の「こころ手紙」は職員が3か月交代で綴る手書きの手紙と入居者のスナップ写真で心温まるものとなっていてご家族にも好評です。今後も続けられることを期待します。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会や全体会議の場で管理者側から投げかけなくても意見が出ている。事業所内でできることは反映させている。	コロナ禍で法人から3人以上の集まりを制限されている中でも、その重要性から例外的に実施している委員会やフロアでのカンファレンスにおいて、職員から意見が出されている。今年は物品購入や各種レクリエーションの充実と回数増加等の提案がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員個々の話しに耳を傾け、一人一人の個性を大切にし悩みや意見等聞き、反映できるように心掛けている。休みの希望や長期休暇等についても対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度においては外部研修で学ぶ機会に恵まれなかったが、管理者がフロアをラウンドする中で、気づいたことや、スタッフから寄せられた意見等をもとに直接当事者に伝えるようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他事業所管理者2名に出席いただき、当事業所管理者も他事業所の会議に出席している。毎回ではないが、自事業所の会議には職員も出席している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度の入居面談は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、管理者のみが面談する形となったが、得た情報を書面化し、入居されるフロアのスタッフへ説明を行った。入居当初の様子をスタッフ間で共有し、ケアプランに反映させている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度入居された方は、面談の後計画作成担当者とも事前に顔合わせを行い、お話を伺う機会を持ち、入居後も電話が中心だが、連絡を取り合うようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前(契約時)に計画作成担当者と本人、家族が顔を合わせお話しする機会を作っているため、直接お話を伺い対応を検討している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の機会はたくさん持てなかったが、ご自身の居室を職員と一緒にいるなど、ご自身でできることは行っていただくようにしている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の支援の中で、経過や様子をお伝えし、ご家族に助言を頂き実際の生活に反映している。ご家族とともに事故防止を考えるケースもある。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度においては、出かけることに制限がかかったが、ご家族が、写真を届けてくださる、短時間屋外で、ご家族と顔を合わせて頂くこと、ご家族は、写真を撮り、他の家族に送信したりして下さっている。	コロナ禍の為家族や知人との面会、馴染みの場所や店への外出が出来ない。今はその代わりに、屋外での短時間の面会を工夫したり、家族が孫達の写真や動画を入居者に見せてあげたり、本人をスマホで撮影して画像を親族に送ることをよくして頂いている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係や新入居があった際等は、配席を変える等を行っている。フロアのソファ等も使い、休憩を兼ねた利用者様同士の関わりの機会やレクリエーション等を通しての関わりを行う中で、利用者様同士で声を掛け合う場面もある。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今回退去されたケースでは、特養へ入居される方があり、退去後にご家族様にご様子等を教えて下さった。手紙や葉書等を下さるケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報を基にケアプランを作成しているが、生活経過とともに修正が必要と感じた場合には、ご家族へお伝えし、ご本人の思いに近づくことが出来るよう努めている。	入居前シートに以前の生活の様子や暮らし方を家族が記入し、面接や電話などで本人の思いや意向を伺っている。意思疎通が困難な方には日頃の様子や会話の中から把握したり、関係者からも聞きとり、一人ひとりに沿ったケアができるよう職員全体で検討している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の見学やご相談時またその後の面談や訪問等また入居前の施設からまた担当CM等から前もって情報を頂き、職員で共有している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの中で、日々の心身状況の変化については伝えている。モニタリングシートを使っての評価やケアマニュアルを作成し現状の力を誰もが把握できるように努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援させていただく中での気づきや課題は、カンファレンスで話し合いを行っている。その話し合いの内容を、電話等でご家族に伝えご家族からも意見を頂くようにし、支援に反映させている。	管理者、計画作成担当者、居室担当者は定期モニタリングの他、体調に変化があれば随時カンファレンスを行い、家族にも相談し介護計画の見直しを行っている。気づきメモやヒヤリハットについては検討を重ね支援経過シートに記録し、全職員で共有している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践の記録をいつもと違う様子などがあると職員間で情報共有し必要な時はカンファレンスを行いケアプランに繋いでいる。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化などで生活の質が変わる事がある。常時ご家族様には忌憚のなくお伝えし、ご意見等お聞きし今後の暮らし方について、ご本人やご家族本位の提案をさせて頂く様に心掛けている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出向く等が今年度は難しい状況にあった。専門医への受診等でご家族と出かけた際に、ご家族が寄り道する等で対応してくださっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調変化時には、ご家族へ連絡を取りかかりつけ医へ受診をしている。月2回かかりつけ医の往診もあり、往診に合わせて面会頂き直接話をさせていただくこともある。その他専門医等への受診には、ご家族が同行し受診してくださっている。	同法人の病院の選任医師がかかりつけ医として月2回往診している。歯科医の往診も毎週受けている。以前からの専門病院へは家族の付き添いがあり、経過報告を聞いている。職員が同行し家族と一緒に医師や看護師の説明を受けることも多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回訪問しご利用者の状態の把握と助言をもらっている。訪問日以外でも体調変化時に電話連絡で指示を頂くことや訪問し直接ご利用者の状態を夜間であっても対応くださっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを作成し情報提供している。入院中の様子については、個人情報の問題もあり教えていただけない場合もあるが、ご家族を介して聞かせていただくこと、ご家族面会時に併せて面会に行っている。その際連携室の職員ともコンタクトを取り情報提供を求めている。経過を連絡くださるケースもある。	入院時にはサマリーを提供し、日ごろの様子など伝えている。入院中は毎週お見舞いに行っていたが、コロナ感染予防のため今は禁止されている。連携室の担当者や医師、看護師、家族と話し合い、速やかな退院支援に結びつけている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時に重要事項説明と同時に重度化した場合の対応については説明している。入居後は状態の変化に応じて重度化した場合の施設としての対応について早めに説明し、常日頃からご家族の考えを聞くようにしている。また必要な時は主治医や訪問看護同席のうえで話す機会を持つようにしている。	入居前の契約面接時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、看取り介護の開始や具体的支援内容、意思確認の方法などについての同意書を家族から得ている。母体が病院であり、事業所として看取りの介護を行った事例は少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを事業所内に設置。応急手当、対応について6月に法人内で研修があり、職員は受講している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、水害を想定した訓練も行っている。施設内の設備の理解や消火器の使用実方法等実際に行っている。運営推進会議の場で地域との情報交換や当法人の病院が災害時の避難場所に指定されていることから、地域の方からも会議の場でお話くださることがある。	日中と夜間を想定した避難・消火訓練を年2回行っている。水害の訓練では、実際に全員最上階に避難した。3日分の非常食や防災用具を準備している。近隣住民の避難場所として同法人の病院が指定され、地域で信頼を得ている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴の情報を職員間で共有し、尊重して対応する様に心掛け、指導しているが、馴染の関係の中で間違った声掛け等している等見かけたら個別で指導している。各フロアでの状況を身体拘束適正化委員会で話し合い、現状や対応について全体会議でも話をしている。	年間研修計画に沿って定期的に話し合っている。不適切な声掛けや接遇があれば、委員会で取り上げ各フロアに戻している。トイレへの声かけにも誇りを傷つけたりプライバシーを損ねないように、さりげないケアを心がけている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを伝えることが出来る方は、美現に向けご家族へも働きかけを行っている。表出が難しい方には、表情等で読み取ったことを、面会時にご家族様に伝えご家族の感じたことも伺い、支援に反映するようにしている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等の予定は立てているが、ご本人が嫌がる時は予定を変更する等無理強いはしていない。思いの表出が難しい方は、表情で読み取るようにしているが、ご家族にも状況を説明し助言を頂いている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容についてはご本人の希望に合わせて利用していただいている。又更衣時にはご本人に聞きながら介助している。ご家族様もご本人の好みに合わせた衣類を持参くださっている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度においては、感染拡大防止の観点から準備は職員が中心となって行った。限られた中であつたが、ご利用者の好みを聞き調理レクを行った。片づけ等はご自身で運べる方は、運んでくださっている。	コロナ禍で食事レクは中止されたが、各フロアで秋祭りの雰囲気味わってもらえるよう縁日の飾りつけをして、職員手作りのカレーや焼きそばを楽しんだ。毎月のお誕生日会に合わせてプリンアラモードやフルーツポンチなどおやつレクを行った。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については時間ごとに記入し、1日の水分トータルは1ヶ月の様子が一目でわかるようにA3用紙に所定の項目を記入し毎日確認を行っている。食事量も記載し、摂取状況についてはご家族にお伝えしている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診時に歯科医師に相談し、歯磨きを嫌がる方の磨き方の指導を受けた。その他、義歯の手入れの仕方等も教えて頂き、実践している。歯科医師も往診時に口腔内を見た後に助言を下さる。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定時ではないトイレへの案内を行い、失敗の回数が減るよう努めている。仕草や行動でトイレに行きたいと感じ取れることがあり、失敗なく排泄できるケースもある。	一人ひとりの排泄のリズムや様子を記録し確認している。落ち着かないしぐさや表情があれば、トイレでの排泄ができるようそっと促している。夜間は紙パンツやパッドを使用し安眠を心掛け、起きてトイレに行く方にはドアに鈴をつけ付き添うようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因や及ぼす影響については、日々の申し送りや便秘で下剤を使う際の観察事項として繰り返し伝えている。訪問看護師からも直接指導を受けている。尿意がなくオムツを使っている方でもトイレに座れば排便が出る方もあり職員2人でトイレに座って頂き排便をして頂いている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	前回の第三者評価で、この課題に関して意見を頂き、入浴剤を導入した、複数の種類から入浴時にご利用者に選んで頂くことが好評で現在も続けている。	週2回の入浴日を設定しているが、嫌がる方には毎日声掛けをし、気分のいい日に入ってもらおう。おむつが濡れた時、散歩の後など個人の状況に合わせた入浴もするようにしている。入浴剤を2種類用意し、各人が選ぶことで楽しみが増している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	言葉で表現できる方はその都度対応している。お疲れの表情や姿勢等を観察し日中はソファや自室での休息を取り入れている。夜間においてはご本人のリズムに合わせているため無理にベッドで休んで頂く対応は行っていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様状況を個人のファイル綴じており薬の情報をいつでも確認できる体制を取っている。薬の変更時には、主に管理者が変更と注意事項を口頭でも伝え、申し送りノートにも記載している。日々の服薬支援は職員二人の目で確認を行い、確実に服用したかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年度は一緒に買い物に行くことはできなかったが、ご家族が嗜好品を差し入れてくださるケースが数件あった。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、外出行事をコロナウイルス感染拡大防止の観点より中止せざるを得なかった。事業所近隣の散歩を行い、ご家族が来られた時は職員も一緒に周辺を散歩するように対応している。	コロナ禍でお花見や外出行事ができなかったが、天気のいい日には毎日近所を散歩し季節を味わっている。畑にサツマイモを植え、収穫してみんなで食して楽しんだ。月1回は受診と家族面会を兼ねて、職員と一緒に通院をすることもあり、話を聞く機会にもなった。	



自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを理解されている方はご家族様が準備下さり、管理についてもご家族様と相談し本人管理、事業所管理を決めている。電話や自動販売機での購入をしている。今年度、希望の品は代理で買い物を行った。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者自身が電話を希望されることがあり、1階の公衆電話へ案内し電話をしていた。年賀状やFAX等を送ってくださるご家族もあり、届いた際はご本人にお渡しする、必要に応じて代読している。ご利用者自身が手紙を出されるケースはない。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの作品を利用者様と一緒に作り掲示している。ご家族にも協力頂き、居室はご本人が使っていたものを持ち込んでいただいている。職員も利用者様と同じトイレを使用しているため汚れに気づきやすく、すぐに掃除をしている。	リビングでは常に温湿度計を見てエアコンの調節をし、換気できるよう窓や空気口を開けている。コロナ対策で入居者は横一列に座っている。みんなで作った梅のちぎり絵やひな人形を壁に貼って季節が感じられ、にぎやかな楽しい様子が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファを活用し、職員が誘導しなくても利用者同士で会話されていることが多い。本を読まれる方、塗り絵をされる方などテーブルを使いお一人で過ごされる時間も持っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご自宅ですべての持参品をお願いしている。持参品の配置等については、ご家族主導で考えていただいている。季節に合わせてご家族が持参下さることが多い。	一人ひとりの思いや気持ちに合わせて、以前に使っていた馴染みのものを置いている。編み物が得意で道具を置いている方、本棚やタンスに家族写真を置いている方、仏壇に手を合わせる方など、それぞれの人生を感じる居心地のよい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように掲示したり、タンスに収納品が分かるように記入する等し、自身で引き出しを開け衣類を選ばれ着替える等の支援を行っている。共有スペースの机、椅子の配置を考え、手すりとの導線を短くする等は行っている。		